

# RETAILER ACADEMY NEWS

Feb 2019 | Bentley Motors Japan

## 新型コンチネンタルGTコンバーチブルを 日本で正式発表 ベンティガ日本限定車も初お披露目



ベントレー モーターズ ジャパンは1月31日、都内のホテルで新型コンチネンタルGTコンバーチブルのプレス発表会を開催しました。当日は約80人のプレス関係者に出席いただきました。

冒頭で挨拶に立ったベントレー モーターズ ジャパンのティム・マッキンレイ代表は、「2018年はベンティガV8やコンチネンタルGTのデリバリーが始まり、大きな反響があって過去2番目のセールスを記録しました。この結果を誇りに思います」などと、好調なセールスに対する謝意を示しました。また、今年がベントレー モーターズの創業100周年であることにも触れたうえで、新型コンチネンタルGTコンバーチブルを「設計からエンジニアリング、組み立てまでの全てを英



国クルー工場で行った、ベントレーの全てを注ぎ込んだモデル」と紹介しました。

アンヴェール セレモニーが終わると、コンチネンタルGT コンバーチブルの特徴について解説。出席したプレス関係者は熱心に聞き入っていました。

次いでベンティガ マリナー エクスクルーシブ for ジャパンのプレゼンテーションを行ったのは、この日のために来日したベントレー モーターズでヘッド・オブ・マリナーを務めるトレーシー・クランプ氏。マリナーの位置付けやマリナーで行っているパーソナライゼーションについて解説したほか、日本限定のベンティガに採用されている寄木細工からインスピレーションを得たフェイスパネルの製作には「エキスパートたちでも3カ月かった」などの製作秘話を披露しました。



100周年を記念するセンテナリースペックについてもプレゼンテーションを行い、会場にはワクイミュージアムからお借りした3リッター（1921年）と4 1/4リッター（1937年）の展示とあわせて、ベントレーの革新の歴史の一部を感じていただきました。

### お客様を招いてのイベントも開催

プレス発表会が終わると、夜7時から、120人以上のお客様を招いてのパーティも開催しました。プレス発表会と同様に各モデルのプレゼンテーションを行い、実際にクルマをご覧いただきました。また、ヴァイオリニストの川井郁子さんのミニコンサートや、お食事と飲み物を楽しんでいただきました。







8代目に生まれ変わった  
スポーツカーの代名詞

# Porsche 911

2018年11月、7年ぶりのフルモデルチェンジにより992型となった、新型ボルシェ 911が発表されました。1963年の初代モデル発表以来、今回で8世代目となる新型911は、伝統的なデザインアイコンはそのままに、高性能と高効率の両立、再設計されたインテリア、充実したアシスタンスシステムなどにより、新世代にふさわしい進化を遂げています。

## エンジンは30 psアップの450 psに

スポーツカーのベンチマークとなるボルシェ 911のニューモデルには、動力性能の向上が宿命づけられています。新型911に搭載される水平対向6気筒ツインターボエンジンは、2981ccの排気量はそのままに、各部に大幅な改良が加えられました。左右対称のレイアウトとなるターボチャージャーは大型化され、電子制御式ウェイストゲートバルブ、新設計のインタークーラー、圧縮比の上昇、ピエゾ式燃料噴射装置の採用などが行われています。これにより、エンジンの効率性と回転特性が改善され、最高出力は従来より30 psアップの450 ps、最大トルクも30 Nm増えて530 Nmを発揮します。トランスミッションは、従来の7速PDK（デュアルクラッチトランスミッション）から進化を遂げ、完全新開発となる8速PDKを採用しています。



ラインアップは、後輪駆動のカレラ Sと、4WDモデルのカレラ 4Sの2種類。エントリーモデルのカレラは、追って登場することが予想されます。動力性能の向上はめざましく、0-100km/h加速は、カレラ Sが3.7秒、カレラ 4Sが3.6秒で、オプションのスポーツクロノパッケージを装備すると、それぞれ0.2秒速くなります。最高速度はカレラ Sが308km/h、カレラ 4Sが306km/hと発表されています。



## よりワイドで筋肉質となったエクステリア

新しいエクステリアは、911のDNAを受け継ぎながら、よりワイドなデザインに一新されました。フロント周りでは、新しいLEDヘッドライトと初期の911を彷彿とさせるボンネットが特徴で、フロントフェンダーは45mmワイドになりました。サイドでは、ホイールベースは従来と同じで全長が20mm長くなっています。特にフロント20イン

チ、リア21インチホイールが収まるホイールアーチはよりワイドになり、ダイナミックな印象を高めています。



リア周りでは、全幅は従来と同じで、カレラ Sのリアアクスルは44mm拡大されました。テールライトは、継ぎ目のない連続的なLEDライトアーチが特徴で、中央に立体的なエンブレムを配しています。また、可変式リアスポイラーはボディ全幅に拡大。スポイラー展開時はハイマウントストップランプが見えづらくなるため、リアスポイラー内にも追加のストップランプが装備されています。



## モダンな印象に一新されたインテリア

新設計されたインテリアの中でも、大きなトピックとなるのがメーターパネルです。伝統的な5連メーターのデザインは踏襲していますが、中央のレヴカウンターは左右は2枚のディスプレイに変わり、アナログとデジタルが融合しています。ダッシュボード中央には10.9インチのPCM（ボルシェ・コミュニケーション・マネージメントシステム）用タッチスクリーンを装備。その下に機能を直接呼び出せる5つのスイッチを設けることで、より直感的な操作を実現しています。



## ユニークなアシスタンスシステムを装備

新型911には、アダプティブクルーズコントロール、ナイトビジョンアシスト、自動エマージェンシーアシスト機能などがオプションで用意さ

れ、安全装備についても充実しています。なかでも世界初の装備となる「ウェットモード」は、フロントのホイールハウジング内で発生する水しぶきを音響センサーが認識し、路面の濡れを感知するもの。ウェットモードに切り替えると、車両全体が最大限の走行安全性を確保する方向にセッティングされます。スポーツカーにふさわしいこのユニークなシステムは全車に標準装備されます。

## 911 カブリオレもデビュー

2019年1月には、最初のバリエーションとして、早くも911 カレラ S カブリオレ/911 カレラ 4S カブリオレがデビューしました。2019年中に発売される新型911 カブリオレは、本格的なスポーツ走行が楽しめる4人乗りオープンモデルとして、トップの改良などを行なっています。



新しい油圧装置の採用により、ソフトトップを開く時間は約12秒に短縮。50km/h以下の速度であれば走行中も開閉可能です。走行時の風の巻き込みを低減する電動式ウインドディフレクター、高速走行時のトップのたわみを防止するマグネシウム製の構造体の採用などにより、オープンモデルとしての完成度を高めています。



## 価格

日本での導入時期は未定ながら、すでにクーペ、カブリオレともに予約受注を開始。トランスミッションは8速PDKのみ、ハンドル位置も右ハンドルのみの導入となり、左ハンドル車の設定がなくなったことも、ひとつのトピックといえるでしょう。

911 カレラ S	16,660,000円
911 カレラ 4S	17,720,000円
911 カレラ S カブリオレ	18,910,000円
911 カレラ 4S カブリオレ	19,970,000円



COMPETITORS INFORMATION



ニューモデル	アウディ RS 4 Avant
発表・発売日	2019年1月28日 発売
概要	・ Audi Sport が手がける Audi A4シリーズの頂点が6年ぶりにフルモデルチェンジ ・ 新開発の2.9 L V6 ツインターボエンジンは最高出力450 ps、最大トルク600 Nmを発揮 ・ 0-100km/h加速4.1秒の高性能と、11.2km/ℓ（JC08モード）の省燃費を両立
車両価格（税込）	アウディ RS 4 Avant：11,960,000円
デリバリー開始時期	—



特別仕様車	アウディ Q7 black styling
発表・発売日	2019年2月19日 発売
概要	・ 人気のボディカラー「オルカブラック」を採用し、内外装を黒基調に統一 ・ マトリクスLEDヘッドライト、20インチホイールを装備 ・ 全国125台の限定モデル
車両価格（税込）	アウディ Q7 black styling：10,190,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	メルセデス・ベンツ S 560 e ロング
発表・発売日	2018年12月13日 発売
概要	・ 3.0 L V6直噴ツインターボエンジンに、高出力モーターを組み合わせたプラグインハイブリッド ・ 130km/hまでは電気モーターのみでの走行が可能 ・ 従来型より容量を約55%増加しながら小型化された13.5kWhのリチウムイオンバッテリー
車両価格（税込）	メルセデス・ベンツ S 560 e ロング：16,970,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	ポルシェ マカンS
発表・発売日	2019年1月18日 予約受注開始
概要	・ 新しい3.0 L V6ターボガソリンエンジンは、最高出力354 ps、最大トルク480 Nmを発生 ・ 軽量化や前後でサイズ幅の異なるタイヤの装着など、最適化されたシャシー ・ 完全にネットワーク化されたインフォテインメントシステムを装備
車両価格（税込）	ポルシェ マカン S：8,590,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	ジャガー F-PACE SVR
発表・発売日	2018年12月19日 受注開始
概要	・ 同社のSVOが手がけた、5.0 L V8スーパーチャージドガソリンエンジンを搭載 ・ 最高出力550 ps、最大トルク680 Nmを発揮し、0-100km/h加速は4.3秒、最高速度は283km/h ・ トラクションとダイナミクスを最適化するリア・エレクトロニック・アクティブ・ディファレンシャル（EAD）を搭載
車両価格（税込）	F-PACE SVR：12,720,000円
デリバリー開始時期	—



一部改良	キャデラック エスカレード
発表・発売日	2019年1月17日 発売
概要	・ 同社のアイコンである縦基調のDRL（デイトタイム・ランニング・ライト）を採用 ・ エンジン停止時に、リアバンパーからキャデラックのクレストロゴを照射する演出を追加 ・ キャデラックメンテナンスケアプログラムを標準化
車両価格（税込）	キャデラック エスカレード プラチナム：13,716,000円
デリバリー開始時期	—

COMPANY

8年連続でトップエンプロイヤーに選出  
育成プログラムなどに高い評価



ベントレー モーターズはこのほど、トップエンプロイヤー インスティテュートからトップエンプロイヤーとして選出されました。専門的な能力開発と、将来を担う人材の育成に対する取り組みが高く評価されました。ベントレー モーターズがこの賞を受賞するのは8年連続となり、100周年という記念の年に花を添えることになりました。

アストリッド・フォンテイン取締役（人事、デジタル&IT担当）は、「将来を見据え、私たちのゴールは、持続可能なラグジュアリーモビリティの提供をリードし、次世代のベントレーのエキスパートをサポートするために必要なスキルと職場環境を計画し、実現することです」などとコメントしています。

トップエンプロイヤー インスティテュートが毎年行う調査は、優れた労働条件を提供し、採用プロセスを継続的に強化し、さまざまなレベルのビジネスを通じて人材を育成するあらゆる努力をする世界中の雇用主を

対象に実施。優れた雇用主を「トップエンプロイヤー」として選出しています。

秋の採用に向けてデジタル部門  
の研修プログラムも開始

ベントレー モーターズはまた、2019年秋の研修生の受け入れを行うにあたって、51の新しいポジションで採用活動を開始しました。採用する事業領域は、デジタル、セールス&マーケティング、人事、財務、購買、エンジニアリング、製造のそれぞれの部門です。特にデジタル部門については、デジタル変革を支援するための技術的、学術的、そして実地体験を提供する予定です。フォンテイン取締役は、「研修プログラムは、ベントレーの将来を担う人材を確保し育成するための実践的なもの。自動車とモビリティ、サービスが急速に進化する世界の情勢を鑑み、研修プログラムでも純粋なデジタル部門を立ち上げることで、既存プログラムの一部にあるデジタル体験をさらに深めることができるでしょう」などと、その狙いを語っています。





# ベンティガ Speed 新登場

## 世界で最も ラグジュアリー＆ 世界最速のSUV



ベントレー モーターズはこのほど、ベンティガ W12 のハイパフォーマンスモデルとなるベンティガ Speed を発表しました。「Speed」を冠したモデルは、2007 年のコンチネンタル GT Speed で初めて誕生しましたが、それ以来続く Speed モデルの伝統を継承しています。また、昨年のパイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライムで市販 SUV 部門の新記録を樹立して以来、ベンティガはその性能の限界を押し広げてきました。

### ベンティガ Speed の特徴

#### EXTERIOR

標準装備のスタイリングスベックとボディカラー同色のボディサイドが、路上での存在感を高めています。また、テールゲート上部のスポイラーは、Speed モデルのために特別に再設計されたもの。さらに、各種ダークティントのパーツや「Speed」バッジにより、ノーマルモデルとの違いが一目瞭然です。



#### INTERIOR

マリナー ドライビング スベックとカラー スベックを標準装備。Speed 専用の新しいカースプリットにより、スタイリングラインが強調されています。ドアまわり、ドアグラブハンドル、シートクッション端部、バックレストのボルスターにはカラーアクセントが施されています。Speed カースプリットを選ぶと、座面とバックレストの中央部、ステアリング、ギアシフトレバー、アッパーピラートリムとヘッドライニングなどが、ベンティガ初採用のアルカンターラとなります（無償でレスオプションも可能）。コントラストステッチの提供範囲も拡大。バックレスト上部の「Speed」刺繍は、コントラストまたはブラインドステッチから選べます。



#### PERFORMANCE

ベンティガ Speed は、最高速度 306km/h、0-100km/h 加速 3.9 秒を発揮する、6.0 リッター W12 エンジンを搭載する、ベンティガシリーズの中で最もパワフルでパフォーマンス志向のベンティガです。

エンジンの出力アップに合わせ、ベンティガ Speed では 4 つのオンロードモードの各モードを最適化しました。特に Sport モードでは、エンジンと 8 速 AT のレスポンスを強化し、サスペンションとダイナミックライドも最適化しています。もちろん 48V システムによるアクティブアンチロールバーが、ロールを抑えてシャープでエフォートレスなハンドリングを実現しています。



#### ■ ベンティガ Speed とベンティガ W12 のパフォーマンス比較

	ベンティガ Speed	ベンティガ W12
最高出力	635 PS @ 5,000-5,750 rpm	608 PS @ 5,000-6,000 rpm
最大トルク	900 Nm @ 1,500-5,000	900 Nm @ 1,350 rpm
最高速度	306 km/h	301 km/h
0-100km/h 加速 (秒)	3.9 秒	4.1 秒

※ベンティガ Speed の数値は北米仕様の参考値



## 100周年記念アクセサリー 「センテナリー コレクション」が登場

今年7月10日、ベントレーは100周年を迎えます。このマイルストーンを記念し、新しく「センテナリー コレクション」が誕生し、オーダーを開始しました。このコレクションは、今年製造される全ての車両に装着される「センテナリースペック」に使われるゴールド仕上げのデザインをモチーフとしています。どんなディナーテーブルも華やかにするナプキンリングから、スタイリッシュなポロシャツからカフリンクスまで、ベントレーが歩んできた100年の間に培った精神を盛り込んでいます。

この100周年記念アイテムをディスプレイし、リテラーごとに行う100周年記念イベントなどでプレゼントとして利用したり、このアイテムそのものを販売したり、さまざまな形でご活用ください。



### センテナリーコレクション



#### ■ センテナリー ノートブック

本体色はブラックで、センテナリー ロゴ（ゴールドの箔押し仕上）とセンテナリーゴールドのブックマーカーと伸縮性のあるバンド付き。表紙と裏表紙の内側にはベントレーのデザイン時のスケッチ入り。



#### ■ センテナリー ナーリング カフリンクス

ベントレーのインテリアにある各種コントロール類に用いられているナーリング加工を施したカフリンクス。「B」ロゴの周囲はセンテナリーゴールドで、背面には「BENTLEY」エンブレムが入る。



#### ■ センテナリー マグ（現在準備中）

ベントレーのエンブレムと100周年ロゴ、クルーのロゴが入ったホワイトのマグカップ。



#### ■ センテナリー ナプキンリング

ゴールドプレートのナプキンリングのセット（2個入り）。リングの外側はナーリングパターンで、リング内側にはレーザー刻印による「BENTLEY」のロゴが入る。



#### ■ センテナリー エスプレッソセット（現在準備中）

カップの縁をゴールドであしらったカップ2個とソーサー2枚のセット。カップにはベントレーのエンブレム、ソーサーには100周年ロゴが入る。



#### ■ センテナリー ランヤード

ベントレーのエンブレム入りブラック&センテナリーゴールドのランヤード。取り外し可能なキーリング付き。



#### ■ センテナリー ティーライトホルダー

エレガントなゴールド仕上げのティーライトホルダー。ベントレーを象徴するモチーフのナーリングパターン入り。



#### ■ センテナリー ランドマーク ポロシャツ（現在準備中）

胸にベントレーの本拠地「CREWE」を示すロゴ、袖に100周年ロゴ、後ろにBENTLEYのエンブレムが入るブラックのポロシャツ。襟と袖にはセンテナリーゴールドのラインが入る。メンズとレディースを用意。



## ジュネーブモーターショーで 100周年記念モデル発表へ



ベントレー モーターズは、創業100周年の今年3月5日からスイス・ジュネーブで開催されるジュネーブ・モーターショーで、100周年記念モデルを発表する予定です。この記念モデルは、ベントレーを最も象徴するレーシングカーからインスピレーションを得たデザインになる予定です。

1919年に、創業者W.O.ベントレーが、「速いクルマ、良いクルマ、クラスでベストのクルマ」を作るといふ、極めてシンプルな哲学のもとに誕生したベントレー モーターズ。100年という年月は、ごく限られた企業のみが積み重ねることができるマイルストーンです。そんな節目の年に花を添えるモデルに、ぜひご注目ください。なお、100周年記念モデルについては、Retailer Academy News 3月号以降で詳しく解説する予定です。

## バサースト12時間、 コンチネンタルGT3は6位と8位 107号車はファステストラップで見せ場作る



オーストラリアのマウントパノラマサーキットで1月31日～2月3日にかけて開催されたバサースト12時間レースに、ベントレー・チームMスポーツが2台のコンチネンタルGT3を投入して出走しました。結果は108号車が6位、107号車が8位でした。107号車は71周目に2:03:57.12というファステストラップを記録。どのチームも107号車のファステストラップをなかなか破れない展開が続きましたが、終了間際の300目で日産GT-Rが2:03:53.82を記録したため、残念ながらファステストラップを叩き出したマシンとしてレースを終えることはできませんでしたが、大いに見せ場を作ってくれました。

表彰台こそ逃しましたが、2台ともトップ10で完走し、今年のマシンの速さと信頼性を証明。ライバルチームの実力も把握できた、意義のあるレースとなりました。タイトル獲得を目指すブランパンGTシリーズ耐久カップ第1戦は、4月13～14日にイタリアのモンツァ サーキットで開催されます。コンチネンタルGT3の活躍にご期待ください！



# 夏タイヤと冬タイヤの違いとは

クルマの走行性能を大きく左右するタイヤには、夏用と冬用が存在します。また最近ではオールシーズンタイヤも話題になっています。今回は、そうしたシーズンごとのタイヤの違いに注目してみましょう。



## ドライ&ウェット路面で 高い満足度を実現する

夏用タイヤとは、降雪を想定しない、常用のタイヤ。いわばノーマルタイヤと呼べるものです。乾燥したドライ路面と雨で濡れたウェット路面をターゲットに、グリップ性能をはじめ静粛性やロングライフ性能を高い次元でバランスよく備えています。新車に装着されているのは夏用タイヤとなります。また、オフロード向けやサーキット向けなどに性能を強化したタイヤも夏タイヤに含まれています。



グリップ力をはじめ静粛性やロングライフ性をバランスよく満たすのが夏用タイヤ。



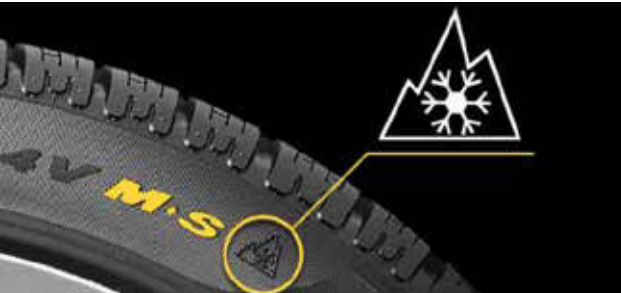
モータースポーツ向けやオフロード向けなどの特殊なタイヤも夏タイヤの範疇。

## 年間を通じて 利用できるのが魅力

冬場の雪道走行が想定されており、年間を通じて利用できるのがオールシーズンタイヤ。ただし、アイスバーン（凍結路）は苦手で、スタッドレスほどグリップしません。また、乾燥路面や濡れた路面での性能も夏用タイヤには劣ります。さらに欧州規格の「M+S（マッド・アンド・スノー）」は、日本の高速道路で冬用タイヤ規制が出ている時は走れません。山と雪を組み合わせた「スノーフレークマーク」があれば冬用タイヤ規制でも走行が可能です。



ゴムの特性とトレッドパターンの工夫などで雪道走行までを可能とするオールシーズンタイヤ。



山に雪の絵柄の「スノーフレークマーク」があれば日本の冬用タイヤ規制でも走行可能。

## 路面が凍結する 厳しい日本の冬に対応

日本は気温が0度前後になる時が多く、溶けた雪が凍るアイスバーン（凍結路）が多いのが特徴です。そのため特にアイスバーンでのグリップ性能が求められます。国産タイヤでいえばスタッドレスタイヤがそれに該当します。輸入タイヤであれば「スノーフレークマーク」が表示されていれば冬用タイヤと見なされます。欧州で呼ぶウインタータイヤは、凍結路性能よりも高速走行性能が重視されており、オールシーズンタイヤに近い性格です。



雪が溶けて凍ってしまうのが日本の道の特徴。それに対応するのが日本での冬用タイヤ。



サイプと呼ばれる細かい溝が凍結路の表面の水分を除去することでグリップ力を生み出す。

■ 路面適合表

	乾燥路面	濡れた路面	圧雪路	アイスバーン
夏用タイヤ	○	○	×	×
オールシーズン	○	○	○	×
ウインタータイヤ	△	△	○	△
スタッドレスタイヤ	△	△	○	○